自立・自己実現
①生活習慣と規則を守る力
②仲間とともに高まる力
③自ら学び、考え、判断する力

学校だより DREAM

茨木市立西中学校
4月　No.1
発行責任者：田中義明

68期生　入学おめでとう！

「本気の声かけ」から、一つ上のステージへ。自分たちの力で学校づくりを！

4月8日、入学式が行われました。第68期生310名をあわせ、約860名で西中学校の平成28年度がはじまりました。

以下、入学式で話した内容を、抜粋し載せておきます。

弁天の桜の花が皆さんの入学を待っていてくれました。

本日、本校に入学された６８期生３１０名の皆さん、ご入学おめでとうございます。今、新しい制服に身を包み、期待と不安を胸に秘めて座っている皆さんを前にして、とてもうれしく思っています。

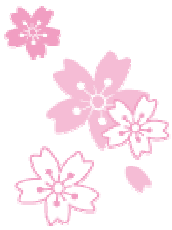
（中略）

つい先日まで、小学校の最高学年として、学校をリードし、卒業式を立派に終えられたばかりの皆さんは、今、新入生として少し緊張してこの場に座っていることと思います。

君たちがスタートする西中での生活は、すべてが学びの連続です。人との出会い、教科の学習、班活動、部活動など、先生や仲間、先輩から伝えられることを、ひとつずつ身につけ、成長して下さい。

昨年度、卒業した６５期生は、３年間の歩みの中で「つながり会い　高めあおう」という合い言葉を見つけ、大きく成長し、とても仲の良い学年になって、卒業していきました。

その過程には様々な学びがあったことと思います。



そのあと、昨年、ノーベル医学・生理学賞を受賞された大村　智（さとし）さん（北里大学特別栄誉教授）のことをお話しました。

大村さんは、静岡県のゴルフ場周辺の土の中から、寄生虫（線虫）を殺す抗生物質をつくる菌を発見し、イベルメクチンという薬を開発しました。その薬が、世界中の家畜の寄生虫の駆除に役立ち、また、オンコセルカ症という失明の危機のある病気から年間３億人もの人を救っているという功績が認められノーベル賞を受賞されました。でも、この功績は自分一人の力でできたものではないとおっしゃっています。

大村さんは小さい時から、お祖母さんに「一番大事なことは人のためになることよ」と教えられたそうです。また、農家の長男であった大村さんは、両親から

農業のすべてを教えられ、土に親しむことを学んだそうです。大学時代に熱中されたスキーでは、ライバルから「勝つためには自分たちで練習する方法を考えなければだめだ」ということを学び、最初に勤められた東京の定時制高校で学ぶ生徒たちの手が昼間の仕事で油まみれになっていることをみて胸を打たれ、自分ももっと真剣に学ぶべきだと考え、研究の道に進まれたそうです。

大村さんは成長の過程で、さまざまな人と出会い、その人たちから影響を受け、学び続けてきました。影響を受けたのは、家族であり、ライバルであり、身近な仲間や教え子たちでした。そして、学んだことを、自分の力にかえ、生き方として、「もっと、研究を深めたい」「人の役に立つことをしたい」と、強い意志をもち地道な研究に取り組んでこられたことが今回の偉業につながったのでないかと思います。

大村さんは、今もまだ学び続け、「人の役に立つこと」をめざしておられます。そして、その生き方は、多くの教え子たちに受け継がれています。

みなさんも、これからの３年間で大村さんのように、自分を高め、人生の道しるべとなるようなできごとがたくさんあることと思います。それは、楽しい事ばかりでなく、苦しいこと、嫌なこともきっとあることでしょう。

（中略）

大切なことは「学ぶ」気持ちです。どんな経験からも学びは得られます。人の話を聴き、自分の頭で考え、知り合い、心を拓いて、仲間とつながり、互いに高めあい、少しずつ地道に積み重ねて成長してください。

まず、１１日(月)、２年生の先輩から新入生歓迎会で、西中にとって大切な様々な言葉と意味を学びます。「日常・仲間・自治」「班食べ」「Ｊ４・Ｊ３」など西中には自分一人の力だけでなく、生徒会を中心に創っている、みんなでみんなが良くなる環境や取組みがたくさんあり、皆さんを応援していることを教えてくれます。決して心配する必要はありません。少しずつ歩んでいきましょう。

（中略）

それでは、皆さんの門出を心よりお祝いして、私のお話とさせていただきます。新入生の皆さん　ご入学おめでとうございます。

新しい年がスタートしました。これまで先輩方から受け継いできたものを、最上級生となった3年生とはじめて先輩となった2年生がリードし、新しく加わった1年生とともに、さらに上のステージへ学校づくりをすすめていきましょう。

1年のスタートは、誰もが「良くなりたい」いう気持ちを持っています。そして、「誰にでもその力がある」と思っています。でも、しなければならないことはわかっていてもできない、逃げてしまいたい。そんな弱い気持ちに寄り添い、支え、「しんどいことから逃げたらあかん」と言えるのが、仲間の存在です。仲間づくりが進むということは、学年やクラスの集団が高まるとともに、個人の力が高まることです。

「本気の声かけ」がみんなのものとなり、自分たちの力で自分たちの学校を高められる、そんな1年にしましょう。